

クラゲ類は世界中に分布し、海の表層から深海に至るまで広く存在が確認されています。しかしクラゲ類に対するCO₂の影響については知られていませんでした。過去に実験を実施したマダイやシロギスの卵や稚魚では、5%のCO₂を含むガスで平衡させた海水（通常海水の120倍以上のCO₂濃度）の中に入れると、24時間以内に半数以上が死亡することが分かっていましたが、ミズクラゲのエフィラ幼生では96時間経過してもすべての実験個体が生き残っていました。ミズクラゲは温度変化や低酸素にも強いと言われますが、このようにCO₂に対しても、非常に高い耐性を持つ種であることが分かりました。

(事務局 研究企画グループ 吉川貴志)



ミズクラゲのエフィラ幼生
(大きさ約2mm)

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に、食の安全・安心や海生生物の保護に係わる海洋環境中の微量化学物質や放射能の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第46号

平成23年1月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階 ☎(03) 5225-1161
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識 Vol.46

★★★ 魚のことわざ ★★★



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

(その44)

—フグ—

海とその生物にまつわる^{ことわざ} 諺や格言についてお話し
しましょう。

今回は、フグ(河豚、布久。フグ目フグ科トラフグ属
およびその近縁種に対する総称)。

英名ではPuffer、またはPuffer fishと呼ばれます。

日本には50種前後が分布します。頭が大きく体は
円い。フグ類は胃部に膨張囊と呼ばれる特殊な袋を
持ち、これに水や空気を入れることによって、からだを
大きく膨らませることができます。フグ類の多くは
美味であることから水産上の重要種になっており、
刺身やちり鍋、ひれ酒などにされます。しかし、ほと
んどのフグはテトロドトキシンと呼ばれるアルカロイ
ド系の大変強い神経毒を持っています。人命にかか
わる強力な毒物なだけに、調理は専門家に任せなけ
ればいけません。

主な漁法は、フグ延縄や定置網、底曳き網などで
漁獲されます。近年は小割生簀で養殖も行われてお
り、1.5~2年の養成で、ほとんど活魚として出荷さ
れています。



「河豚のようにふくれる」

フグは身に危険が迫ると水(空気)を吸い込んで体
を大きく見せ、相手を威嚇するが、そのさまは、どう
見てもいい格好ではない。若い娘などがきげんを損
ねてプウーとふくれた状態をいう。しかし、魚族は
フグに毒のあることを承知して避けて通り、ふく
れなくともフグは食われることはないようで、天敵は
人間だけである。



「河豚に越すものなし」

「その味死に値す」。魚の味ではフグの右に出るも
のはないということ。



「河豚は食いたし命は惜しし」

「蜜は甘いが蜂が刺す」。利益も欲しいが損失も恐ろ
しくて手を出しかね、物事が両立しないことの例え。



「河豚下げて井戸のぞく子を叱りつけ」

他人を戒めるばかりで、自分のことは棚に上げてい
ることの例え。井戸をのぞくよりフグを食う方が危険
が大きい、という発想から出た言葉。